

授業 科目名	【G】	教養講義(学校臨床心理学)	区 分	開講年次	【G】1	単位数	【G】2	
	【H】	教養講義(学校臨床心理学)			【H】1		【H】2	
	【I】	教養講義(学校臨床心理学)	選 択		【I】1		【I】2	
科目区分	基本科目							
授業形態	対面開講							
担当形態	単 独							
施行規則に定める科目区分又は事項等								
サブ タイトル	心の健康のための心理学				担当者	田中 將之		
授業概要	【概要】	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床心理学に関する代表的な研究者(例えば, Freud, Jung, Adler)の諸学説を、心理教育的観点から修得する。</li> <li>グループワークなどの活動を通して実践的感性を養い、人間心理への教育的理解の深化を図る。</li> </ul>						
	【到達目標】	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間心理に関する多様なものの見方・捉え方を学び、今後の人生にどう活かすかのヒントを得ている。</li> <li>人間関係を良好なものにするための技法の基礎を理解している。</li> </ul>						
履修条件	・ 特になし							
アクティブ ラーニング の方法	【－】	事前学習型	【－】	反転授業	【－】	調査学習	【－】	フィールドワーク
	【－】	双方向アンケート	【○】	グループワーク	【○】	対話・議論型授業	【○】	ロールプレイ
	【－】	プレゼンテーション	【－】	模擬授業	【－】	PBL	【－】	その他
ディプロマ・ ポリシーとの 関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	－ (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	－ (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	－ (当てはまらない)						
他科目との 関連性	・特にないが、学校に関わるという意味で、教職論、教育心理学と関連する部分はある。							
教科書	・特に、指定しない。							
参考書	・授業中にプリントを配布する。							
評価方法	授業中に指示するテスト(70%)と、受講意欲・グループワーク等を行う際の姿勢・態度、リフレクションカードの記述(30%)で評価する。なお、予告をせずにノート提出を求められることがあり、提出の有無・内容も評価に入れるものとする。							
フィードバック 方法	レポートについては、提出期間経過後に、評価ポイントを学生に伝える。テストを行う場合は、解説を行う。							
評価基準	S・A: 授業内容をよく理解しており、応用力もある、B: 授業内容を理解している、C: 最低限の基礎力を備えている、D: 基礎力が不足している、E: 基礎力が著しく不足している、F: 評価不能。欠席時数過多やテストを未受験の場合は、F評価とする。							

授 業 科目名	【G】	教養講義(学校臨床心理学)	区 分	開講年次	【G】1	単位数	【G】2
	【H】	教養講義(学校臨床心理学)	選 択		【H】1		【H】2
科目名	【I】	教養講義(学校臨床心理学)			【I】1		【I】2
授業回数	授業内容						
1	ガイダンス 臨床心理学とはどのような学問か 予習: 心理学とはどのような学問か, 予習をしておく。 復習: 臨床心理学の概要を整理し, まとめておく。						
2	臨床心理学・精神医学の歴史Ⅰ - 古代ギリシア・ローマの医学 - 予習: ヒポクラテス, ガレノスの考え方を調べておく。 復習: 中世までの精神疾患の捉え方をまとめておく。						
3	臨床心理学・精神医学の歴史Ⅲ - 脳科学と精神医学の発展 - 予習: 近代の精神医学の歴史について調べておく。 復習: 脳科学の発展が何をもたらしたか, 確認しておく。						
4	フロイトの精神分析Ⅰ - フロイトの心的局所論, 心的構造論 - 予習: 心的局所論, 心的構造論について調べておく。 復習: フロイトは心をどうとらえていたか, 確認しておく。						
5	フロイトの精神分析Ⅱ - 無意識(錯誤, 夢) - 予習: 無意識の現れとされるものを調べておく。 復習: 夢, 錯誤, ヒステリーについて確認しておく。						
6	フロイトの精神分析Ⅲ - 無意識(夢の持つ意味), 自由連想法 - 予習: 自由連想法とはどのようなものか, 調べておく。 復習: フロイトの精神分析の方法論を確認しておく。						
7	ユングの分析心理学Ⅰ - コンプレックス - 予習: ユングのコンプレックスに関する考え方を調べておく。 復習: 様々なコンプレックスに関する学説を確認しておく。						
8	ユングの分析心理学Ⅱ - フロイトとの決別と集合的無意識 - 予習: ユングが, なぜフロイトと決別したのか調べておく。 復習: フロイトとユングの学説の違いを確認しておく。						
9	ユングの分析心理学Ⅲ - 元型 - 予習: ユングのいう元型とは何か, 調べておく。 復習: 集合的無意識について確認しておく。						
10	アドラーの個人心理学Ⅰ - 自己決定論 - 予習: アドラーの自己決定論を調べておく。 復習: 環境や過去にとらわれない未来志向の心理を復習しておく。						
11	アドラーの個人心理学Ⅱ - アドラーは劣等感をどう捉えたか - 予習: アドラーの劣等感に対する捉え方を調べておく。 復習: 劣等感について, ポジティブな面を確認する。						
12	アドラーの個人心理学Ⅲ - 勇気づけとは何か - 予習: アドラーがいうところの勇気づけとは何か, 調べておく。 復習: 勇気づけの持つ意味を確認する。						
13	カウンセリングの技法Ⅰ - 傾聴とは何か - 予習: 傾聴の方法について調べておく。 復習: 傾聴の方法について, 確認する。						
14	カウンセリングの技法Ⅱ - 共感的理解の必要性 - 予習: 共感的理解とは何か, 調べておく。 復習: カウンセリングの技法の要旨を確認する。						
15	本授業のまとめ テスト 予習: これまでの授業の要点について総まとめをしておく。 復習: テストで出た内容について, 再度確認をしておく。						
その他	・アクティブラーニング型授業(グループワーク等)を行う場合, 主体的な参加が求められる。 ・授業の順序, 内容については学生の反応を見極め, 変更を行う場合がある。 授業ごとの予習・復習時間は, 各120分程度を目安としてください。						